

浜名湖ボート事故

豊橋で「菜の花キャンドル」

同級生ら西野さんしのぶ

浜松市の浜名湖で二〇一〇年六月に野外活動中のボートが転覆した事故で、亡くなった豊橋市草南中学一年の西野花菜さん(当時二二)を追悼する催し「菜の花キャンドル」が二十三日、草南中学校区内の公園で開かれた。

菜の花キャンドルは、宿泊研修施設「静岡県立三ヶ日青年の家」が毎年企画していたが、今年は西野さんの両親が「同級生も訪れやすいように」と豊橋市内で開いた。



キャンドル二千個をク、ハートの形に並べ、暗くなるとオレンジ色の明かりが浮かび上がった。

父親の友章さん(五四)は「高校一年生になった同級生にはつらい事故の思い出を受け止めて、将来を担う大人に成長してもらいたい」と、集まった同級生たちに呼び掛けた。母親の光美さんは「学校現場で同じような悲劇を起こしてはいけない」ということを、豊橋から発信したい」と語った。

集まった同級生たちは、キャンドルの光を見ながら西野さんを思い返していた。同級生で高校一年の山崎菜月

さん(二〇)は「これからと友達。忘れてはいけ
もずっと心の中にいる ないと思う」と話し
し、何年たってもずっと。(中山梓)

三河 12 版

2013年(平成25年)12月24日(火曜日)

言宣

宣

新刊

浜名湖ボート転覆 花菜ちゃんを忘れない

同級生ら追悼キャンドル

浜名湖(浜松市)で2010年6月、野外学習中に起きたボート転覆事故で死亡した豊橋市立草南中学校一年の西野花菜さん(当時12歳)を悼む「菜の花キャンドル」が23日夕、西野さんの自宅に近い豊橋市の公園で初めて開かれ、同級生らがろうそくに火をともし、西野さんの冥福を祈り、学校行事での事故が二度と起きないよう願った。

豊橋に会場移し

事故が起きてから毎年この時期、現場の三ヶ日青年の家で指定管理者の小学館集英社プロダクションが開いてきたが、同社が今年度いっぱい指定管理者でなくなることや、遺族の「同級生たちが参加しやすいように」という願いもあり、遺族主催で会場が移された。

会場ではこの日、同級生や近くの子どもたちが、ペットボトルで作った2000本のろうそくを並べ、クリスマスリースや富士山の形を浮かび上がらせた。

西野さんの父親の友章さん(54)は「花菜の同級生にはつらい思い出があるが、絆を深く受け止められる大人に成長してほしい」と話した。また、西野さんと同じボートに乗っていた湖に投げ出されたという男子生徒(16)は「花菜ちゃんのことは決して忘れない。たくさんの方が集まり、事故を風化させないという思いはみんなに伝わったと思う」と話していた。

夕闇にろうそくの火で描いたクリスマスリースと富士山

